

コインに軍配

— イランのおかねよもやま話 —

岩崎 葉子

テヘランでコインを使って最後に何かを買ったのはいったいいつのことであつたらうか、とんと思ひ出せない。ケータイが普及して公衆電話のお世話になることもなくなり、ただでさえ少なかったコインの出番は激減した。いまではプリペイドカードなどの番号のスクラッチや、栓抜き代わりに使う程度である。

重い、大きい、使いたくない、と三拍子揃ったイランのコインはイラン人にも敬遠されがちで、台所のすみの空き瓶に溜まるか、財布を軽くしたい人々が町のそこそこにある「慈善募金箱」に投げ込んでいくばかりである。

イラン中央銀行のウェブサイトによれば、目下イランでは記念硬貨を除くと五種類のコインが製造されている。イランの通貨単位は「リヤール」というが、それぞれ

五〇リヤール、一〇〇リヤール、二五〇リヤール、五〇〇リヤール、一〇〇〇リヤールのコインである。このうち一〇〇、五〇〇、一〇〇〇については同額の紙幣もある(二〇一三年五月末現在、一〇〇〇リヤールは八円ちよつとくらい)。

ところが現在のイランでは日常的にこの「リヤール」という単位を耳にすることはほとんどない。人々が使うのは「トマーン」という単位である。一トマーンは一〇リヤールに相当する。なので、手のひらに一〇〇〇リヤールと銘打ったコインを載せていても、〇をひとつ落として「二〇〇トマーン」と呼ぶのである。外国人の筆者はつい「額面どおり」に数えてしまうが、イラン人はもはや無意識にこれを切り替えられる。

ところが困ったことには、レス

トランのメニューなど何かに書かれた価格はリヤール単位であることも多い。だから家具や家電など相場観のない高額商品を前にしたときは、ずらずらと景気よく並んだ値札の数字がいったい「リヤール」なのか「トマーン」なのか、確認せねばとんでもないことになる。もちろん値札の単位がどちらであつても、店員に値段を訊けば彼は「トマーン」単位で返答する。しかも「トマーン」すら省いていう場合もあつて、ややこしいことこのうえない。

さてリヤール表示のコインの裏面には、イラン人が一生に一度は詣でたいマシユハドのエマーム・レザーの聖所や、古都エスファハーンの観光名所であるサファヴィー朝期の巨大な石橋ボレ・ハージュなどの絵がかわいらしく彫られている。これに加えて五〇

〇リヤールコインには一三世紀の著名なペルシア詩人サアデーの廟も。さすがは世界有数の文学大国、これらを見るとイラン人が自国について何をとりわけ自慢に思っているか、力強く伝わってくる。

ちなみに紙幣のほうには、一九七九年のイラン革命の指導者ホメイニー師の肖像や、農村部で革命の理念に燃える農夫が畑を耕している場面などが印刷されていて、政治色が濃い。それに比べると、コインのほうはもっぱら文化遺産が採用されたデザインといえようか。見本をご覧になりたい方はこちら (<http://www.cbi.ir/section/1374.aspx>) を参照あれ。

さて、こうしたコインはインフレがすごい勢いで進行するなかで、そもそも日常の買い物にさえ使われることが少なくなつてしまひ、最近ではいずれもあまりお目にかからない。いまだき一〇〇〇リヤール単位でおさまる代金といえば、その辺の文房具屋でやってくるA4サイズのコピーサービースや、身体に悪そうな子どもの駄菓子くらいである。財布がずっしり重いのは気分の悪いことではないが、たいして使いたくない小銭



筆者撮影

「だから筆者は夜なべ
仕事に、折り目にそつ
てきれいに半分は割れ
そうになっている何枚
もの紙幣をセロハン
テープで補強し、ババ

「誰かのケータイの番号、怪しげ
な七、八桁の数字、住所……いつ
ぞやは、女子学生風の丸文字（ア
ラビア文字でもこういう類のハン
ドライティングがある）で紙幣の
片面にびっしりと何かが箇条書き
に書き込まれているものがあつ
た。むむ、おおかたこれは学校に
ノートを忘れて、お札に授業内容
でも書いたのかとよく読んでみる

「いわざわざ ようこ／アジア経済研
究所 中東研究グループ」

で財布がばんばんに膨らむより
は、五〇〇リヤールや一〇〇〇リ
ヤールのような同額紙幣を使って
買物するほうがスマートだ。
しかし、筆者は同じ価値ならあ
えてコインに軍配を上げたい。と
いうのも、イランの小額紙幣に
は、コインの使い勝手の悪さをも
凌駕する大問題があるからだ。す
なわち、紙の質のせい（材質は
一〇〇％コットンだそうだが）、は
たまた人々の扱いがぞんざいなせ
いか、たいへんにもろいのである。
日本の紙幣は、一回くらい洗濯
機で洗ってしまったもびくともし
ない強さがある。世界に誇る和紙
を素材に、国立印刷局の職人氣質
の技術者が凝りに凝って作って
いるのだから当然だ。ところがイラ
ンでうっかりこれをやると、ちょ
うどティッシュペーパーを汚れ物
と一緒に洗ってしまったときのよ

うに、絶望的な状態に溶解してし
まう。
洗濯機で洗わないまでも、流通
している間に紙幣はみるみる劣化
する。手垢にまみれて、心なしか
異臭さえ放つ、古代エジプトの遺
跡から出土したパピルスよろしく
崩壊寸前になっている一〇〇〇リ
ヤールを「おつりだよ」と渡され
たときには、即座に断るのが賢
い。ぼんやり受け取ったが最後、
いつまでたつても自分の財布から
去ってくれない。買い物に使用
くても、みなそれをババ抜きのパ
バのように嫌がつて、受け取つて
くれないからだ。
とは言え、イランで出回ってい
る紙幣は十中八九（少なくともそ
のように感じる）、どこかしらに
欠損・破損のあるしろものなの
で、日本の感覚からいえば「え
え、これもまだ現役なんですか」
と驚愕するようなお札
もあえて大事に使わね
ばならない。

「なるぬよう気をつけたものであ
る。うっかりババを作りたくない
と考える人は他にもいるらしく、
ときどき糊の弱いごわごわしたイ
ラン製セロハンテープで、しかし
几帳面にお札の角が補修されてい
るものが回ってきたりする。
嗚呼これが、一〇〇〇リヤール
コインであったなら。もちろん、
銀行へ持つていけば新しいお札と
替えてくれる。しかしいったい誰
が、一〇〇〇リヤールの新札のた
めに時間と交通費を使ってそんな
ことをするだろうか？
こうして大事に使うと骨を折
る市民がいる一方で、紙幣をメモ
用紙がわりに使う不埒な輩もあ
る。イランの紙幣はポロポロなば
かりではなく、たいがい、何やら
汚らしい「走り書き」がしてある
のだ。

「と、料理のレシピであった。
イランの人々はこれを案外、意
に介さない。メモ用紙になったお
札はババではないところが不思議
である。
コインはもちろん、このような
不当な扱いを受けることはない。
破損もない。安心である。重くて
使いでがないコインが細々と流通
し続けているのは、何はともあれ
耐久性に優れているからかも知れ
ない。
紙幣に比べて持ちのいいコイン
は、気長に待つていればお宝に化
ける可能性すらある。ネット上の
古銭商サイトを覗くと、つい数年
前までよく見かけた二五〇リヤ
ール（大きなバイメタル貨であつ
た）がなんと早くも売りに出され
ている。日常生活における出番が
あまりに少ないので、持つて歩く
のが面倒でつい空き瓶に溜め込ん
でいた筆者は猛省。お馴染みの二
五〇リヤールコインが、サーサー
ン朝ペルシアのコインとともに
ネット上で売られているのを見
て、我が家にも世界中の好事家の
垂涎的がたつぷり眠っているこ
とに気づいた。